

「確かな学力」を育てる学習活動の研究

～「意図した言語活動」で教科をつなぐ学習指導の工夫～（2年次）

I 研究の内容

1 研究仮説

- ・意図した言語活動を授業に仕組み、学びの実感がもてる指標を導入することで、児童の確かな学力が育まれるだろう。（先行教科）
- ・先行教科の成果をもとに英語科・体育科における言語活動を授業に取り入れ学びの実感がもてる指標を導入することで確かな学力が育まれるだろう。（英語科・体育科）

2 研究の具体的内容

- (1) 国語・算数・理科などの本校でこれまで研究で培ってきた「意図した言語活動」の成果をこれまで以上に授業において明確にし、具体的な姿として児童を見取る方法を研究する。
- (2) 先行教科での成果を生かしつつ、体育科・英語科についての言語活動について基礎的な研究を進める。
- (3) 学級での学習活動における言語活動を支える力の要素として、学級力アンケート（早稲田大学教授 田中博之教授 提唱）を用い、その結果を利用して学習指導にかす。

3 研究方法

- (1) 児童の実態調査や指導法の工夫など理論研究や実践研究
- (2) 授業研究（研究の成果を実証するために、3回の検証授業を行なう）
- (3) 「1人1実践」の公開授業
- (4) 特別支援教育の学習会
県教育センター 土肥 満先生「通常学級における特別支援教育の在り方」
- (5) 今日的教育課題関連の学習会
日川小学校校長 原 喜雄先生「学級力向上プロジェクトについて」

II 成果と課題

1 成 果

- ・授業の目的と評価を一致させるために日々の授業に、「意図した言語活動を仕組む」ことができた。一人一実践等で、日常の授業で意図した言語活動が展開されるようになり、授業の目的に合致した活動がされるようになった。
- ・これまでの研究を生かして、付箋やホワイトボードなどを有効に使って授業づくりが行われるようになった。

- ・学級力アンケートを実施し、その成果・課題を学習指導に生かす授業づくりに取り組んだ。学級の実態を正確に把握する中で、その改善を図るために、学習の型（話形や学習の流れ）を提示することで、子どもの思考の流れを明確に示すことができた。
- ・体育科や英語科においても、その教科・単元に特徴づけられる言語活動があることが研究授業を通して確認できた。
- ・学級力の再確認をし、すべての学級で学級力アンケートを実施し、成果や課題を学年間で交流することができた。

2 課 題

- ・意図した言語活動が学習目標にどのように作用を及ぼすのか客観的な指標の設定を目指したが、学級力アンケートの変容は、その時点での学級の力を表し、学級経営の確かな方向性を示すのは大きく役立ったが、学力の向上を図る指標としては別なものを考えていく必要がある。
- ・体育科・英語科における言語活動は、その学習目標を達成するために展開されてきたが、その領域・単元によって様々な活動が考えられる。指導計画を見直す中で必要とされる言語活動の開発が求められる。
- ・学級力を学習環境を支える重要な要素であると捉え、その活用が求められる。今年度取り組んだ成果・課題をいかしながら研修を深めていきたい。

Ⅲ 成果物

1 全体／部会研究授業指導案（ワークシート等も含む）

（1）先行教科部会

3年 算数 「かけ算のしかたを考えよう」 新谷 雅美教諭

（2）体育科部会

4年 体育 「かけっこ・リレー（走・跳の運動）」 中村 亮二教諭

（3）英語科部会

4年 英語 「好きなものを伝えよう」 広瀬 真理教諭

2 授業公開指導案（一人一実践）

- ・全教員が授業案に意図した言語活動を位置づけ実践交流した。

（研究主任 岡 村 太 郎）